

聖和キャンパスからみる関西学院史

元教育学部教授・関西学院短期大学非常勤講師

山本 伸也

聖和の沿革

2009年4月、学校法人関西学院と学校法人聖和大学の法人合併により学校法人聖和大学は廃止され、現在の聖和キャンパスには教育学部、大学院教育学研究科、関西学院短期大学、関西学院幼稚園がある。本稿では短期大学及び幼稚園に焦点を当て、聖和の歴史を説明したい。

関西学院短期大学は3つのルーツを持っている。1つ目は1880年に宣教師J. E. ダッドレーとM. J. バローズが神戸の花隈に開設した女子伝道学校であり、1908年に神戸女子神学校となった。2つ目は1888年にW. R. ランバスの母であるM. I. ランバスが神戸山2番の自宅で開設した神戸婦人伝道学校であり、この学校は1913年にランバス記念伝道女学校となった。最後は英和女学校保姆養成科（1908年、保姆師範科に名称を変更）であり、聖和の幼児教育・保育の源流となる。関西学院幼稚園は英和女学校附属幼稚園（1891年）を起源としている。

広島女学校（現 広島女学院）の創設期

米国から広島に帰郷した砂本貞吉はJ. W. ランバスとともに1886年10月に私塾広島女学会を開き、この私塾は1887年2月に英和女学校となった（『広島女学院百年史』、1991、pp. 3-7）。1887年10月、W. R. ランバスの要請に応じてN. B. ゲーンズが来日し、1889年9月に英和女学校の校長に就任した。



上流川校地の校舎（1890年）

ゲーンズは1891年9月に保育を始め、1892年2月に正式な認可を得て9月に英和女学校附属幼稚園を開園した。1895年には保姆養成科が設立され、1896年に英和女学校は広島女学校となり、1908年に保姆養成科を名称変更して保姆師範科とした。

ランバス女学院

1919年、ランバス記念伝道女学校と広島女学校保姆師範科を合併し、新たな学校を大阪に建設することが決議された。学校名は2つの学校の設立に関わったランバスファミリーの人々を記念してランバス女学院とされた。

1921年4月、ランバス女学院保育専修部が開設され、翌年2月に保育専修部の実習園としてのランバス女学院附属幼稚園が正式に開園した。さらに翌年5月には学院の新校舎が竣工し、保育専修部と神戸にあった神学部が併置された。



ランバス女学院新校舎（1923年）

ランバス女学院に関して特筆すべきことの一つは、関西学院の教師陣が授業を担当しただけでなく講習会等の教育活動にも関わったことである。開学初期から関西学院の松下績雄、堀峯橘、亀徳一男、曾木銀次郎、今田恵らが保育専修部あるいは神学部で授業を担当した。例えば、今田恵は授業を担当するだけでなく母親学校や講習会の講師及び児童相談所の所員も務めた（『聖和保育史』、1985、pp. 107-120）。聖和が関西学院と最も密接な関係があった期間であったと思われる。

聖和女子学院から現在まで

1941年4月、ランバス女学院と神戸女子神学校の合同により、西宮市岡田山で聖和女子学院が開校した。関西学院が上ヶ原に移転したのは1929年であり、神戸女学院が岡田山に移転したのは1933年であった。

聖和女子学院は1950年に聖和女子短期大学に、1981年に聖和短期大学に、1988年に聖和大学短期大学部になり、現在は関西学院短期大学となっている。ランバス女学院附属幼稚園は1942年に聖和女子学院附属幼稚園となった。幼稚園はその後、2箇所に分かれて運営されたが、1987年に聖和大学附属幼稚園となり、現在は関西学院幼稚園となっている。（やまもと しんや）

*写真2点は関西学院短期大学キリスト教教育・保育研究センター所蔵